

瀬戸 遥 SETO, Haruka
<http://www.big.or.jp/~seto/>
<http://hp.vector.co.jp/authors/VA006682/>

Visual Basic .NET コッコ 倶楽部

第10回

マイWebブラウザを作ろう！

Level

- 1 2 3 4 5

Technology Tools

- Visual Basic
- Visual C#
- Visual C++
- SQL Server
- Oracle
- Access
- ASP.NET
- Other:

↓
 Visual Studio .NET 2003
 Internet Explorer 6.0

Samples

この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、
<http://www.shoeisha.com/mag/windev/>
 からダウンロード可能です。



オリジナルのWebブラウザを作ってみないか

今月は、Internet Explorerのコアモジュールとなる**Web Browser**コントロールをフォームに組み込み、オリジナルのブラウザを作ってみます(図1)。

Internet Explorerをコンピュータにインストールすると、必ずWeb Bro

wserというコントロール (COMコンポーネント) がインストールされます。

このコントロールは、いわばInternet Explorerそのもので、Webページの表示だけでなく、「戻る」「進む」「更新」など、Internet Explorerの操作をメ

図1：今回作成するサンプルの実行画面



ソッドで提供します。また、Webページを表示する際、ページ要素のダウンロード開始/終了時など、いろいろなタイミングでイベントを発生します。

このWeb Browserコントロールは他のコントロールと同様、フォームに組み込むことができ、メニューやツ

ルバーなどInternet Explorerと同等の機能を持ったWebブラウザプログラムを作ることができます。また、グラフィックスを使ってInternet Explorerとは違ったデザインのブラウザプログラムに仕上げることも可能です。



Web Browserコントロールを使うには

Web Browserコントロールを使うには、Internet Explorerがコンピュータにインストールされていることが大前提です。

コンピュータにインストールされているのを確認したら、VS.NETのツールボックス上で右クリックして「アイテムの追加と削除」を選びます(図2)。「ツールボックスのカスタマイズ」ダイアログボックスが開くので「COMコンポーネント」タブを選択し、「Microsoft Web Browser」にチェックを入れます(図3)。すると、ツールボックスにはWeb Browserコントロールが追加されます(図4)。

どんな機能がある？

Web Browserコントロールは、フォームに配置しただけではただの白い枠ができるだけで、Internet Explorerのようにツールバーやメニューはありません。これらは

すべて自作します。

Webページを表示するには、Navigate2というメソッドを使用します。メソッドの引数に表示するWebページのURLを文字列で設定しメソッドを実行します。

図2：「アイテムの追加と削除」を選択

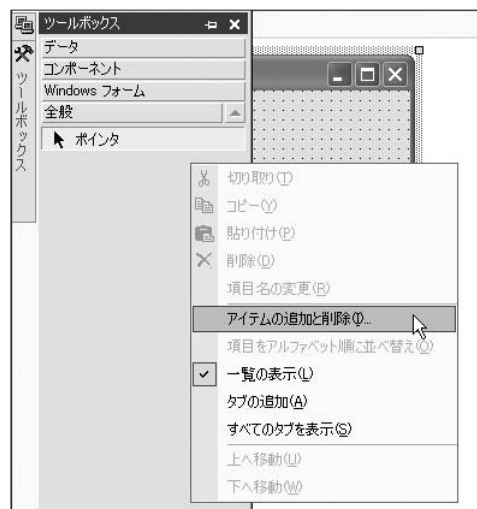


図3：「Microsoft Web Browser」をチェック



図4：ツールボックスにWeb Browserコントロールが追加される

